

派遣報告書（報告者；中屋敷 大）

大会名	第 55 回全九州高等学校バスケットボール選手権大会
開催地	長崎県
日 時	令和 7 年 2 月 15 日（土）～ 16 日（日）
担当ゲーム 1	（男子） 宮崎工業（宮崎①） vs 九州学院（熊本①）
相手審判	CC：川井 剛（鹿児島） U1：中屋敷 大（大分） U2：比嘉 涼太（沖縄）
（担当ゲーム 1）Pre-Game Conference	
・ベーシックなメカの確認 ・1 試合目のスカウティングからエースプレイヤーや DF の特徴の確認 ・ベンチへのコミュニケーション ・クルーでのアイコンタクト	
（担当ゲーム 1）Post-Game Conference	
・自分が、このゲームをどうコントロールするのか。ゲームの価値を下げるようなものには TF の決断をしないといけないし、見ている人がわかりやすいもの、それをどうデリバリーするのが課題。 ・知らないから鳴らせない（ノーコール）ではなく、アングルを取りに行き、自分の見解をどう持つか、また、それを鳴らす決断（勇気）を持たないと、次のステップアップは難しい。 ・リードに課題を感じた。マニュアル通りにやりすぎ、「なぜそこにいるのか」という考えがなくマニュアル通りを実践したので、見えないケースがあった。 ・クルーでアイコンタクトやコミュニケーションを取り明らかなものには笛が入っていたのは良かった。	

担当ゲーム 2	（男子） 福岡第一（大阪①） vs 九州学院（熊本①）
相手審判	CC：中屋敷 大（大分） U1：秀島 充彦（佐賀） U2：松田 大輝（長崎）
（担当ゲーム 1）Pre-Game Conference	
・クルーと T0 でコミュニケーション、アイコンタクトを取り処置ミスゼロに繋げる ・DF の入り方、シリンダーの見極め（レフェリーDF）を良いポジショニングで取れるようにする ・留学生に対するリバウンドの絡みを注意する	
（担当ゲーム 1）Post-Game Conference	
・吹かなくてもよい笛があり、パスの行方、レシーバーのバランスが崩れるなどの、最後の絵ができてから鳴らす意識がまだ弱かった。 ・ファウルバランスは偏ったものの、良いテンポセットができた。しかし、笛の回数にあまりにも偏りを感じたので、プライマリレフェリがもっと責任を持つべきだった。 ・3P のアシストや、ケイデンスで鳴らすなど、情報を持っている人が笛のタイミングを気にしながら鳴らすことができた。	

今大会に参加しての感想など

今回、U18九州大会を経験させていただき感じたことは、今のライセンスからステップアップしトップリーグを吹くためのモチベーションや責任感の無さを痛感しました。「なぜ鳴らせなかったのか」というところを自分の中でもっと分析していかないといけない。1つの現象に、わからなかったからということで終わらせることなく、自分なりの見解を持てるように、ポジションアジャストであったり、飛び込む勇気（決断）であったりを日頃から意識して取り組んでいく必要があると思った。また、ゲーム価値が下がる行為に対してはコミュニケーションで終わらせるのではなく、TFなどの決断をするべきであった。収穫としてはクルーとのコミュニケーションやベンチとのコミュニケーションは円滑に行うことができ、大きなトラブルなく終えることができた。また、プライマリを尊重したり、ペイシエントホイッスルを意識したりすることができた。

今回、派遣して下さった大分県バスケットボール協会の皆様、審判委員会の方々へ深く感謝し報告とさせていただきます。